



苫小牧市まちづくり戦略に基づく 地方創生事業業務

教育事業のご説明

（課題解決型教育・グローバル教育）

合同会社デロイト トーマツ

2026年7月24日

< Confidential >

課題解決型教育

施策名：課題解決型教育に係るカリキュラム開発

本施策の目的		市内中学校の総合学習を活用し、課題解決に関する教育プログラムを開発 3年間で市内全域の中学校へ展開することで、課題解決型人材の育成・輩出を目指す
ゴール	最終目標	モデル校での実証から市内全域へ、教員が主体となる課題解決型教育の定着と自走化を実現する
	R8年度の目標	課題解決型教育のプログラムをモデル校で実証し、他校への横展開や自走化も見据え、実施結果を踏まえながら、各学校への導入方針や事業像・プログラムのアップデートを行う

事業フロー

	R7年度	R8年度(今年度)	R9年度
取組・成果	モデル校での実証実施を見据え、教育プログラムの具体的な内容や学校現場での活用方法、運用上の方針について整理	明野中学校をモデル校として、課題解決型教育プログラムを学校活動の中で実践し、学習内容・進行方法・体制面の実行可能性を検証	確立したプログラムを市内中学校へ段階的に展開するとともに、教員が主体的に運用できる体制を整備し、学校教育の中に継続的に位置付く仕組みを構築
成果物	- 課題解決型教育の方針資料 - 次年度の実証を見据えた教育プログラム・活動計画	- プログラムの実施結果フィードバック - 他校展開の候補先リスト	- 複数校での導入実績 - プログラム導入・指導マニュアル

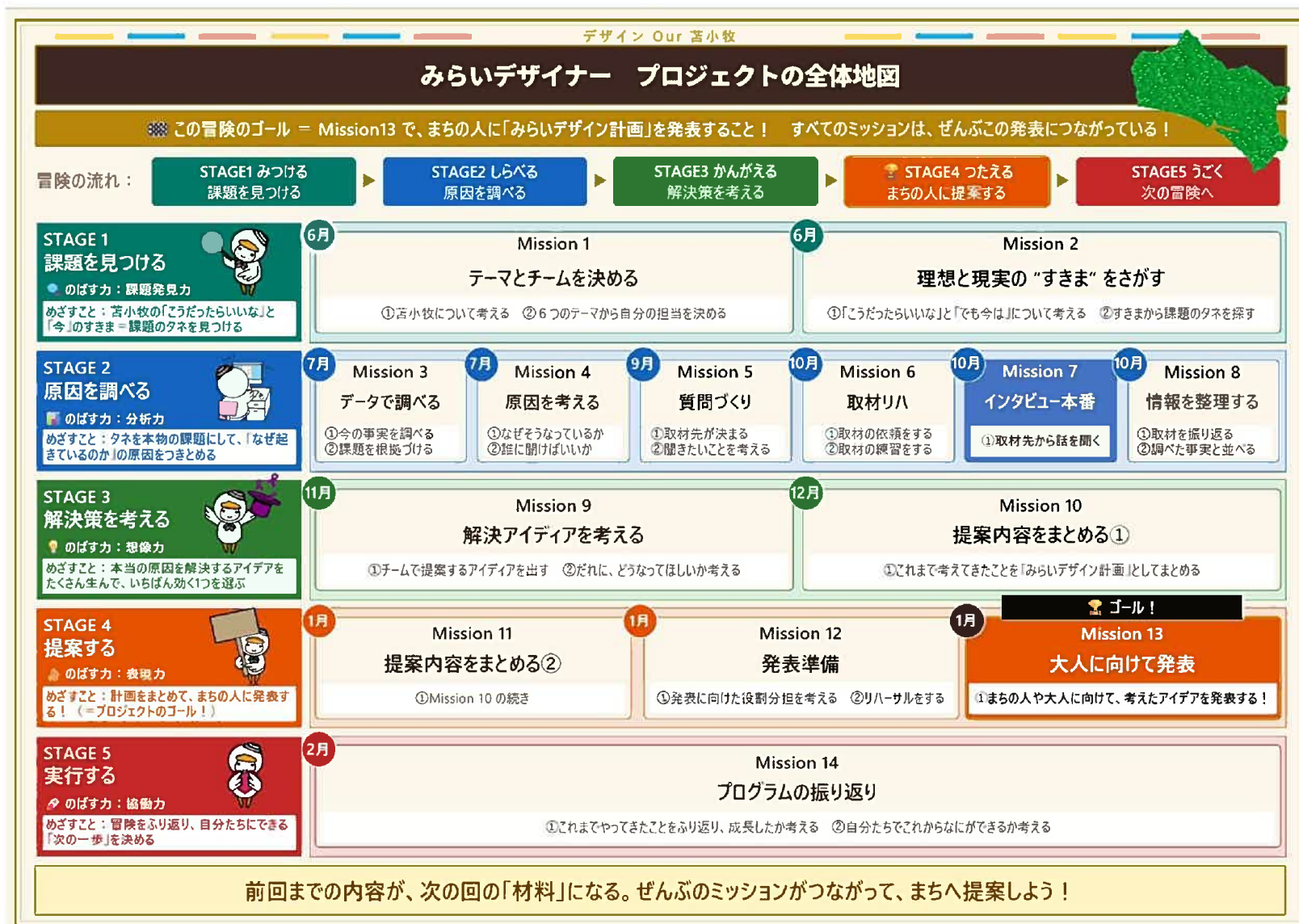
今年度から明野中学校の1年生を対象に、「総合的な学習の時間」を活用して本格的に本プログラムを実施しています

R8年度プログラム実施イメージ

フェーズ	名称	授業回	実施予定	主な内容	位置づけ
フェーズ0	オリエンテーション	-	5月	プログラム説明、テーマ選定、目標設定	オリエンテーション
フェーズ1	プランニング (導入・理解)	第1回～第4回	6月～7月	プログラム目的の理解、コンサル手法の基礎	本プログラム
フェーズ2	アプローチ (探求・発見)	第5回～第9回	9月～10月	フィールドワークと情報収集・整理	本プログラム
フェーズ3	アイディエーション (分析・検討)	第10回～第12回	11月～12月	データ分析、解決策立案、提案内容検討	本プログラム
フェーズ4	プレゼンテーション (提案・発表)	第13回	翌1月	提案書作成、発表	本プログラム
フェーズ5	アクション (振り返り)	第14回	翌2月	プログラム全体の振り返りと評価	本プログラム

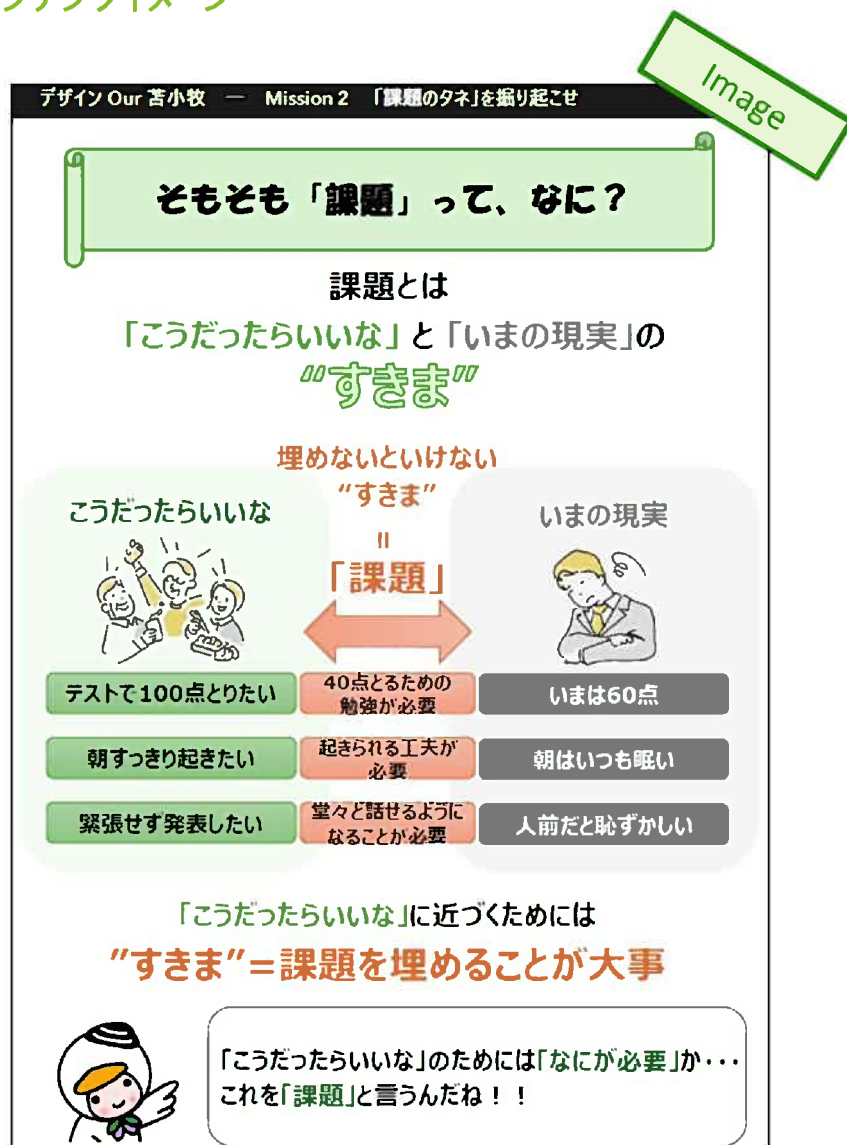
本プログラムは、市長からの特命を達成するための「14のミッション」で構成されます。
各ミッションは連動しており、一つずつクリアしていくことで、最終的な「みらいデザイン計画」
の策定へと繋がるよう設計しています

プログラム全体像_苫小牧みらいデザインプロジェクト『デザイン・Our・苫小牧』



プログラムコンテンツの作成にあたっては、市教委様およびモデル校の先生方と協議を重ね、対象生徒に適した表現・難易度となるよう工夫を進めています

コンテンツイメージ



作成のポイント

- ✓ 中学生に合わせた言葉遣い
 - ビジネス現場で用いるコンサルティングのノウハウを、中学1年生でも理解できる言葉と例に置き換える
- ✓ 教材の視認性
 - イラストや「とまチョップ」のひとことメモを活用し、文字情報に偏らない構成で視認性・可読性を高め、飽きずに取り組める表現にする
- ✓ インプット・アウトプットのバランス
 - 1コマ50分の中で、前半をインプット、後半をアウトプットに配分することで、理解の定着を促し、目標とする能力開発の達成につなげる

生徒には 6 つのテーマから自由に選択してもらうことで、主体性とまちづくりへの参画意識を醸成していきます

生徒主体のテーマ選定

テーマの検討方針

- 苫小牧市総合計画の中から、子どもの目線で考えることができる内容とする
- 各テーマに対応する地域の協力者等と連携し、フィールドワークを実現できるようにする
- 多様なテーマを用意し、生徒が自分の関心に応じて選択できるようにする

テーマ（学習フィールド）

テーマ1：子育て支援の充実		テーマ2：観光の振興		テーマ3：市民スポーツの推進	
概要	苫小牧市の子育て家庭が安心して楽しく暮らせるための新たな支援アイデアを考える	概要	苫小牧の観光資源を発掘し、新たな観光プランを考える	概要	自分たちの運動習慣や地域の様子をもとに、スポーツを楽しむ工夫を考える
生徒への投げかけ	赤ちゃんや小さな子どもを育てている家族は、どんなことで困っていると思う？	生徒への投げかけ	観光客が苫小牧市に訪れる理由を新しく作るとしたら、どんな魅力を発信する？	生徒への投げかけ	学校や地域で、もっとスポーツが身近になるとしたら、どんな工夫ができる？
連携先	市都市計画部門、公園管理者、子育て支援団体など	連携先	観光協会、ホテル・旅館、交通事業者など	連携先	市企画部門、地元企業、スポーツ団体など
テーマ4：国際・国内交流の推進		テーマ5：GX / 環境保護		テーマ6：まちなかの活性化	
概要	国内外の人々との交流を通じて苫小牧市の魅力を発信し、新しい考え方に触れる方法を考える	概要	地域の環境課題（ゴミ問題、自然保護等）を調査し、解決策を考える	概要	まちなかをよりにぎやかに行きたくなる「楽しく使いやすい」まちのアイデアを考える
生徒への投げかけ	他の地域や国の人と交流するとしたら、どんなことをしてみたい？	生徒への投げかけ	日常生活で目にする環境問題にはどんなものがあり、解決のために地域でできることは何だろう？	生徒への投げかけ	まちなかにあったらうれしい場所やイベントは何だろう？
連携先	市多文化共生部門、日本語学校など	連携先	市環境部門、NPO、地域住民団体など	連携先	市都市計画部門、地元企業など

授業の様子



テーマ希望調査

テーマ1 ちびっこスマイル・ プロテューサー  君のアイデアで、 赤ちゃんやキッズが楽しめる サービスを発明しよう！	テーマ2 # 癒しの高小牧 パスと世界  まちの隠れた宝物を 探し出し、世界にバズる PRを仕掛けよう！	テーマ3 スポーツイベント 開発ラボ  誰もかハマる 最新のスポーツイベント を企画しよう！
テーマ4 グローバル 友達メーカー  言葉の壁をこえ、 世界中にトモガチをつくる イベントを生み出そう！	テーマ5 本小牧 ネイチャー守り隊  苫小牧の自然を 未来に残すアイデアを 考えよう！	テーマ6 まちびか デザイン部  苫小牧を自分たちの手で 最高の遊び場に デザインしよう！

6つのテーマの中から、
この1年間の
プログラムを通じて、
携わりたいテーマを
自由に選択

現状の自己評価

能力	こんなことができるかな？	自己評価（得意は数字に○をつけよう）			
		1 まだ できる	2 少し できる	3 できる	4 よく できる
課題発見力	身の回りや地域で「困っていること」や「もっと良くなりそうなおこと」に気づける				
	「なぜそうになっているのか？」と原因を考えることができる				
分析力	問題の本当の原因は何かを考えることができる				
	集めた情報を、使っているもの同士でグループ分けできる				
	情報を表や図にまとめて、わかりやすく整理できる				
想像力	情報を比べて、大事なポイントを見つけることができる				
	「こうしたらどうか？」と新しいアイデアを思いつける				
	他の人が思いつかないような、ユニークなアイデアを出せる				
協働力	自分のアイデアが本当にできるかどうか考えられる				
	グループの仲間と協力して活動できる				
	自分の役割を理解して、責任を持って取り組める				
表現力	仲間の意見をしっかりと聞いて、尊重できる				
	自分の考えを、言葉で相手に伝えることができる				
	図や表を使って、わかりやすく説明できる				
	発表すると、相手の顔を見て話すことができる				

本プログラムを通じて
身に着けていく
能力・資質について、
現状値をセルフチェック

インプット学習に留まらず、実践的なアクティビティによるアウトプットを重視しております。
生徒の進捗や課題を教員の皆様と密に共有し、連携しながら着実に前進しています。

生徒のアウトプット（「Mission3 調べて「課題」を本物にせよ」の事例）

1 学期ではチームごとに課題を設定し、
2 学期以降でまちの事業者へインタビューし、
解決策を考えていきます

デザイン Our 苫小牧 — Mission3 調べて「課題」を本物にせよ

チームワークシート ～ 課題のタネを「本物の課題」に育てよう ～

担当テーマ： 苫小牧 ネイチャー 守り隊 チーム番号： 12

メンバー：

進め方： 左から右へ → ①いまの現実を「事実」にする → ②課題に変える（～すべき） → ③聞き先と質問を考える ★リサーチのコツ★ 単語で検索／だれが言ってる？／出どころメモ

第2回で選んだ「追いかけてたい課題のタネ」：

景観を整える

STEP 1 いまの現実を「事実」にする

調べて、数字や事実でうらづけよう

①わたしたちは、こんな現実があると思う：

せっかく広い歩道なのに、草がのび、は

②調べてわかった事実・数字：

数は出たが、高校生や民間の
企業が協力して保護活動している

③出どころ（どこで見た？）：

苫小牧 港開発 株式会社 画像

★ 検索のコツ：地名＋知りたいこと＋数
例「苫小牧 若者 施設 数」
★ 数字が見つかったら課題が強くなる！

前回のワークを
思い出そう！

STEP 2 課題に変える（～すべき）

理想と事実を合体させて言いかえる

「こうだったらいいな（理想）」＋「STEP1の事実」を合体
すると…

理想：きれいな自然の道を作る

事実：数少ない人の道なのに、ゴミがある

わたしたちの課題：

苫小牧は…

きれいな状態に
生き物と共存する活動を
苫小牧は、今ゴミが多いので、これから、人々
できれいにする必要…すべき／する必要がある。

例：苫小牧は、今は〇〇だから（事実）、これから△△
になるためには（理想）、××すべき（課題）

▲ 気をつけよう

「〇〇を作る」は「やること（解決策）」
いまは「どうあるべきか」を「～すべき」で書く
（原因や解決策はまだ考えなくてOK）

事実をふまえて
「課題のタネ」を
言い直そう

STEP 3 聞き先と質問を考える

取材しゅんぴ

①だれに聞く？（あてはまるものに○）

☒ 市役所の人

☐ 商店街・お店の人

☒ その場所をよく使う人

☒ 若者・先輩

☐ かわいい専門家

☐ その他（ ）

②聞きたい質問を出して、大事な3つに○

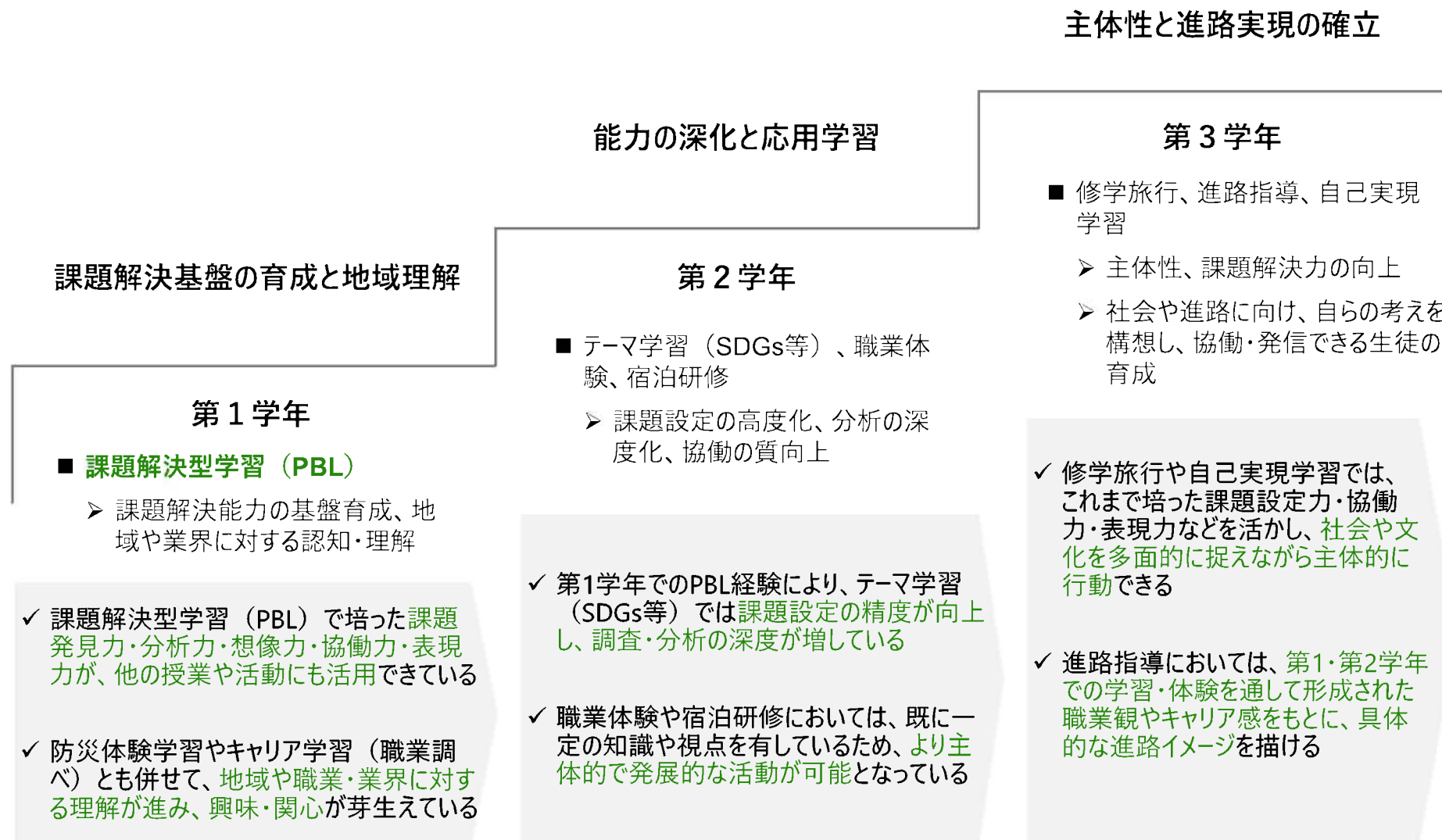
ルール：たくさん出す／評価しない／そのまま書く／「～
だ」は「～ですか？」に直す

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

この課題について
だれが、くわしそう…？

本プログラムを通じて課題解決能力の基盤を育成し、この基盤を他教科・他活動・学年間の学びへ有機的に接続することで、3年間を通じた持続的な成長を実現することを目指す

本プログラムと中学校3年間の学びへの接続



単発の体験で終わるのではなく、全14回の積み重ねで「まちへの提案」という具体的な成果に繋げる点に学びの意義があると考えています。

従来の教育事業・イベントとの比較

比較の視点	従来の教育事業・イベント	本プログラム
期間・設計	単発～数日で完結。回どうしのつながりは薄い	全14回の連続設計。毎回の成果物が次回の材料になる「積み上げ型」
生徒の役割	見る・聞く・体験する（受け手）	課題を自ら立て、データで検証し、取材し、提案する（主体）
扱うテーマ	あらかじめ用意されたプログラム・教材	実在するまちの課題6テーマ（子育て・観光・スポーツ・国際・環境・まちなか）
地域との関わり	企業・施設は「見せる側」として協力	市役所・企業・団体が「問われる相手・共創の相手」として参加
成果の行き先	感想文・レポートとして学校内にとどまる	「みらいデザイン計画」としてまちの大人へ提案。学びがまちに届く

訴求ポイント

①「型」が身につく

- ✓ 課題発見、仮説思考、データ検証など、大人の課題解決手法を中1向けに翻訳
- ✓ 「生きて働く力」として使える探究の型が残る

② 本物で学ぶ

- ✓ 実名の取材先 × 実在の課題 × 市長からの依頼
- ✓ 生徒自身が、当事者として「まち」に向き合う貴重な経験をすることができる

③ まちに資産が残る

- ✓ 提案・企業との接点・探究の型が事業後も残る
- ✓ 職場体験など既存事業の接点を取材先として活かす補完設計

グローバル教育

施策名：グローバル教育に係るカリキュラム開発

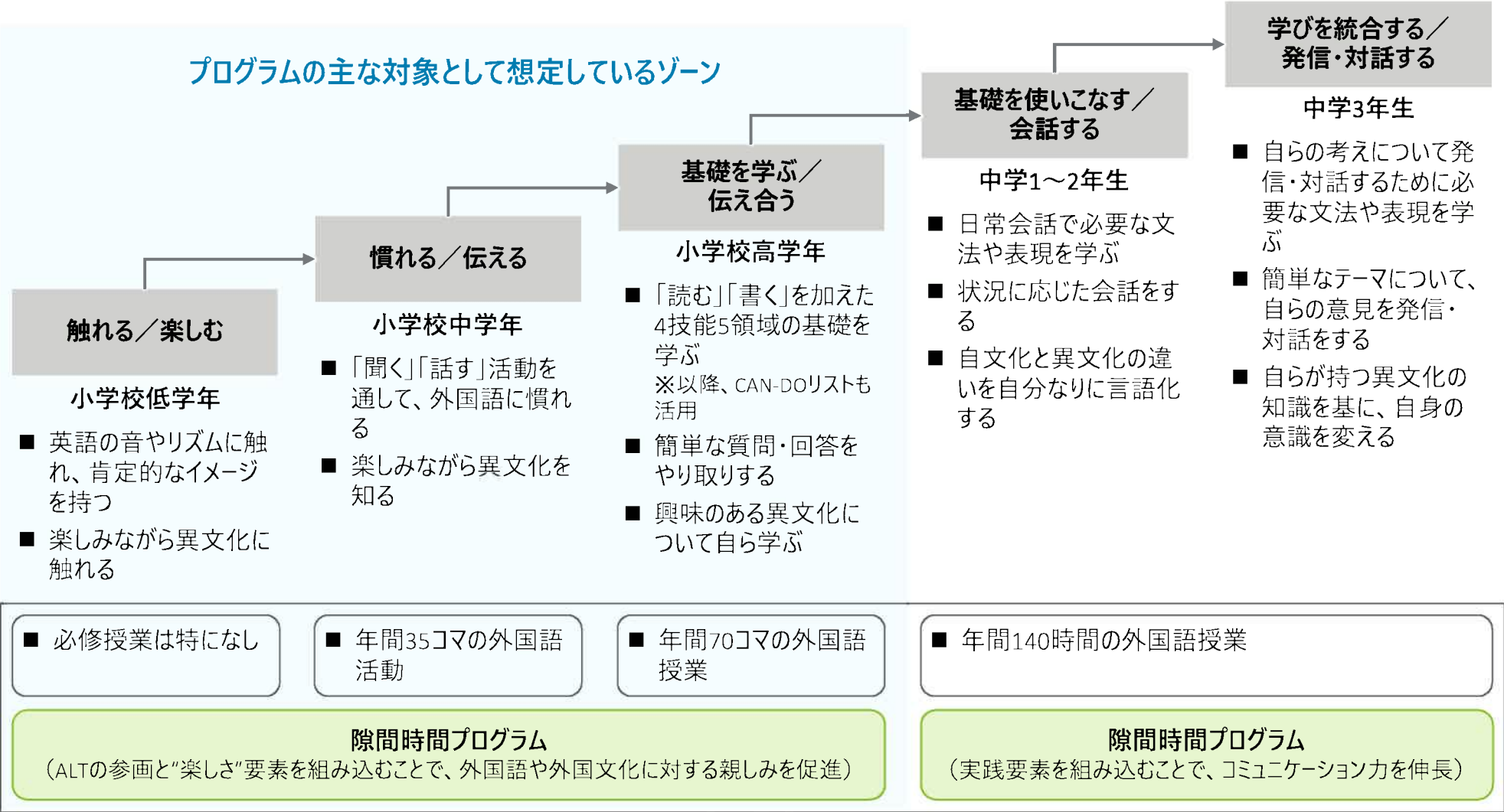
本施策の目的		英語や多文化に関わる時間をより多く費やすことのできるグローバル教育プログラムを開発 3年間で公教育へ展開することで、市内におけるグローバル人材の育成・輩出を目指す
ゴール	最終目標	グローバル人材像と教育方針を明確化し、現場実装可能なプログラムを体系化・段階展開、教員・ALT主導で定着させる
	R8年度の目標	モデル校とともに、実証に向けた実施方針・プログラム案を設計・実施し、今後の自走化・他校展開の土台を固める

事業フロー

	R7年度	R8年度(今年度)	R9年度
取組・成果	次年度以降の実証実施を見据え、グローバル教育プログラムの全体像や考え方、実施内容について整理	- R7年度の方針を基に、ALTや教員等と共にプログラム内容を具体化 - 上記プログラムを市内のモデル小学校にて実証	R8年度実証プログラムを市内学校への段階的に展開していくと共に、教員やALTが主体的に運用できる仕組みを整え、学校教育への定着を推進
成果物	グローバル教育の方針資料（目指す人材像、教育の在り方、施策の方向性等）	- 実証を見据えて整理した教育プログラムおよび活動計画 - カリキュラム案・教材案	- 市内学校における導入・活用実績 - 教員・ALT向け指導マニュアルおよび運用資料

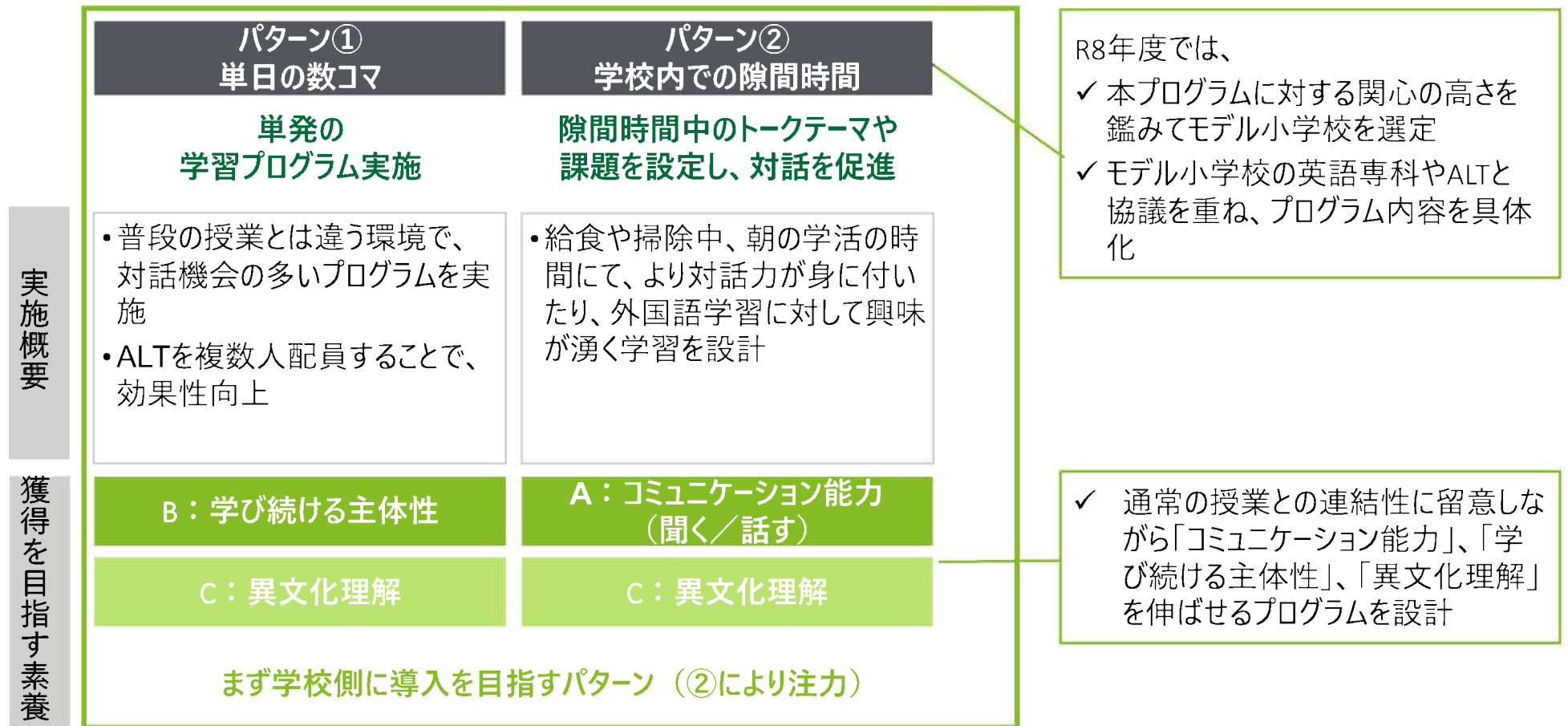
本プログラムを通して、外国語への興味・関心を育み、 段階的に、英語力の向上や異文化理解の醸成につなげることを目指しています

小中学生期における系統のカリキュラム案



モデル校の候補として拓勇小学校へ打診をしており、学校との意見交換を重ねながら、外国語や異文化に触れるプログラムの検討・実施を推進していきます

プログラム検討の実施方針



本事業のモデル校候補として、現在、拓勇小学校に打診をしています

拓勇小学校は、授業と連動したコミュニケーションプログラムなど先進的な取組を行っており、モデル校として本事業の目的に沿った検討をともに進められると考えています

拓勇小学校における先進的取り組み

拓勇小で令和7年度に実施したコミュニケーションプログラムは、生徒が主体的にコミュニケーションを取る機会として効果的に機能していた

学校にもノウハウが蓄積されており、担当の英語専科教員にはモデル校としての参画意欲も確認済み

拓勇小での実績概要

- 場所
校内のイングリッシュルーム
- 対象
小学5～6年生
- 指導体制
各回 英語教員1名、担任1名、ALT9名（本来10名だが1名欠席）
- 時間
授業1コマ分
- 活動内容・流れ
 - ・ 生徒は2人1組でALTブースを回り、テーマに沿って英語でコミュニケーション
 - ・ テーマは「週末の予定」「将来の夢」など、年間の学習内容の復習に対応

活用可能性が考えられるポイント

- ✓ 教室外の空間（市内カフェや施設等）
→ 普段と違う環境下でコミュニケーション機会を設けることで、より意欲的に実践することを促進
- ✓ 午前／午後または1日
→ より長時間枠を確保することで、聞く・話す機会を多く確保
- ✓ 隙間時間等を活用した、日常的な取り組みとの連動
- ✓ 実際に生じるような場面を想定して、対話実践
→ “伝わる”ことに焦点を置いたコミュニケーションの活性化
- ✓ ALTを通じた異文化理解を促進できるセッションの追加
→ 多様な文化／考え方を知り、外国語／異文化学習に対する関心を持つきっかけを創出

素養育成につながる定期的な授業や隙間時間プログラムと、モチベーションが高まる不定期な学びの機会を掛け合わせることで、学習効果をより向上可能と想定

まずは拓勇小学校をモデル校として成功事例を確立し、その実績を足がかりに、次年度から市内全体への展開を目指します

拓勇小学校との連携



拓勇小での実践を、 市内へ発信・サポートします！

教育委員会や苫小牧市役所、コンサルティング会社・デロイトが支え、市内の子どもたちの学びにつなげていきます。



拓勇小学校の素晴らしい取組

日々の授業や児童との関わりの中で、外国語を「使う」「伝える」力を育てる取組がたくさん行われています。



自分の言葉で伝え合う活動
考えや気持ちを伝える活動を通して、
自信を育てています。



ALTと一緒に学ぶ授業
ALTとのやり取りを大切に、
楽しく学べる授業を工夫しています。



Can-Doを意識した授業づくり
目標を意識して、自分の力に合わせて
挑戦できる授業づくりを進めています。



日常の場面を活用した取組
あいさつや掲示物など、日常の中で
英語にふれる機会を広げています。

★ こうした取組が、児童の自信と力につながっています。

拓勇小学校にお願いしたいこと



実践を見せてください

日々の授業や取組の様子を、
見せていただきます。



負担なくお願いします

特別な準備や新たな取組は不要です。
いつもの授業や取組のままで大丈夫です。

例えば、こんな場面を見せてください

- パフォーマンステストの様子
- ALTとの授業のやり取り
- 日常のあいさつや活動の様子
- 掲示物やEnglish Cornerの活用 など

短い時間・いつもの形で、お願いします。

教育委員会・苫小牧市役所・ コンサルティング会社・デロイトが行うこと



実践の整理・分析

見せていただいた実践のよさを整理し、
ポイントをまとめます。



資料作成

事例集や動画などの資料を作成し、
分かりやすくまとめます。



市内への発信

研修やWebなどを活用し、
市内の先生方にも紹介します。



学校の負担を軽減

取材や資料づくりはサポート側が担当し、
学校の負担を最小限にします。



拓勇小での実践を、「苫小牧市の宝」へとつなげます。

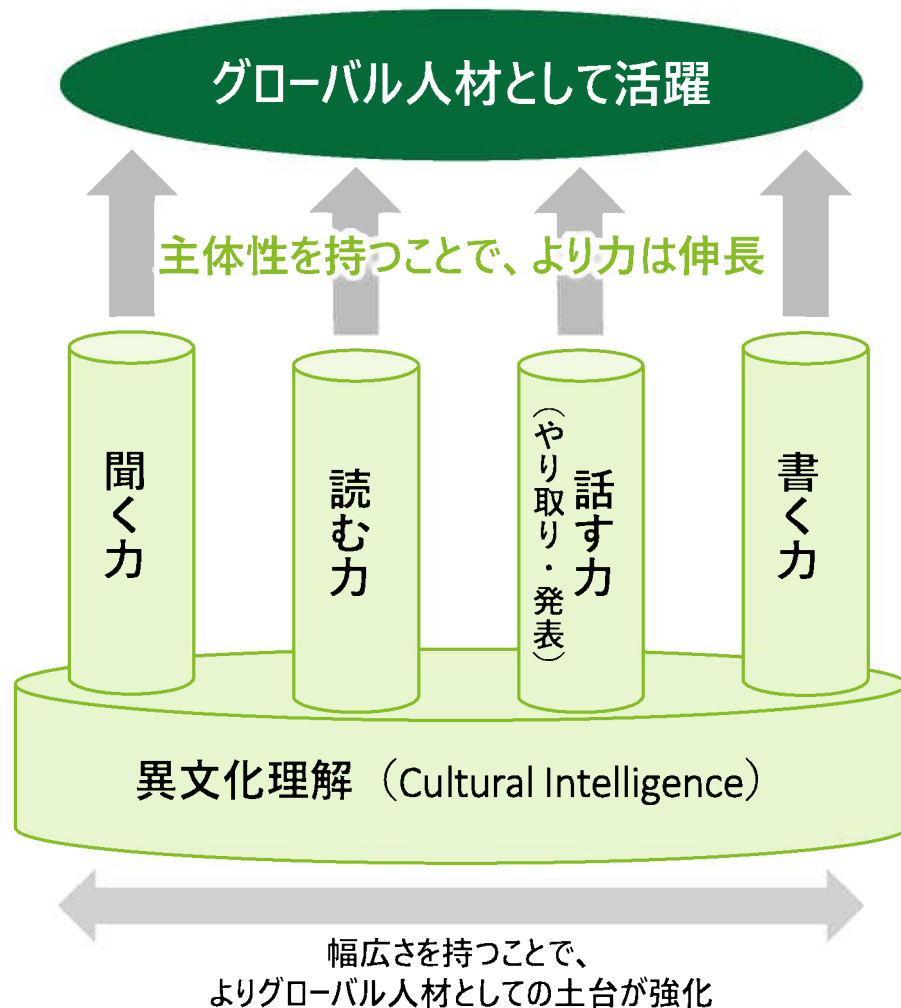
苫小牧市の子どもたちの「伝えたい!」「もっと話したい!」を育てるために、
一緒に、よりよい外国語教育をつくっていきましょう。



グローバル人材には、 4 技能 5 領域の素養以外にも、異文化理解力や主体性が求められます

参考

グローバル人材に必要な素養



- **主体性：**
自分で能力を上げようと試みる気持ち
- **聞く力：**
相手が話す内容、意図を理解できる力
- **読む力：**
社会的な話題や時事について、概要を捉えられる力
- **話す力：**
自身の経験に基づき、情報や考えを発表／意見交換できる力
- **書く力：**
正しい文法や表現で文章を作成できる力
- **異文化理解（Cultural Intelligence）：**
文化的背景の異なる人々を理解し、適応できる力

小中学校の外国語（英語）授業においては主に
読む／書く能力や聞く／話す能力の土台となる知識を習得可能

より高度なグローバル人材の育成に向けては
「聞く／話す力」・「主体性」・「異文化理解」を伸ばす必要がある

プログラム内容は、授業やCAN-DOリストとの連動性を高めた設計とします

参考

プログラムの実施方針案

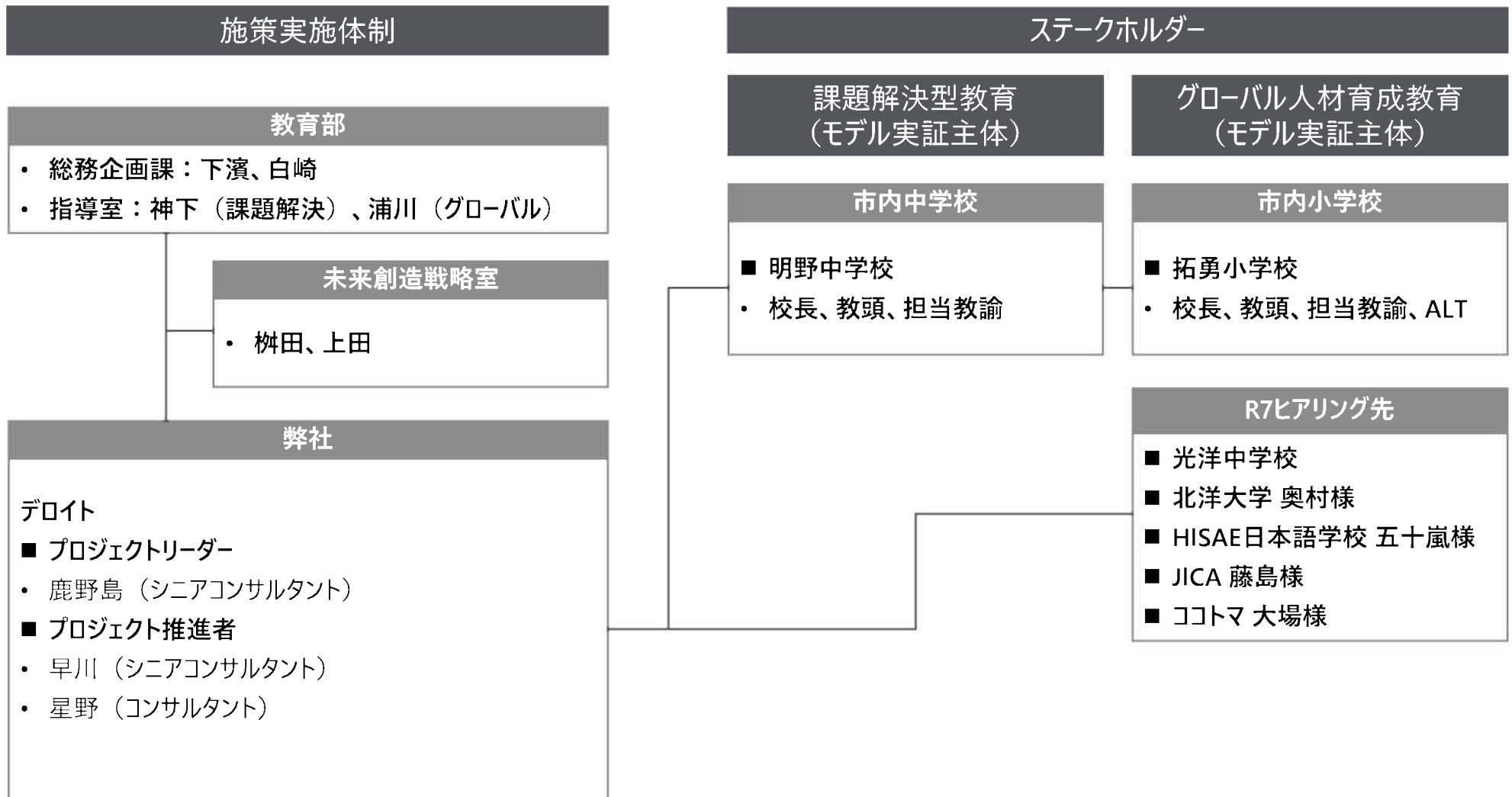
観点	A：コミュニケーション能力 (聞く／話す)	B：学び続ける主体性	C：異文化理解
成功の ポイント	■ ネイティブの英語に触れる（耳を慣らす）機会を確保する ■ レベルを問わず、参加学生に「伝わった！」という成功体験を得てもらう	■ 外国語や異文化を学ぶ楽しさや魅力を各々で見つけてもらう ■ 上記の楽しさや魅力と、自分のキャリアや学習方針を結びつけてもらう	■ 自分が興味を持てる国、民族、国家文化などを見つけてもらう ■ 偏った思い込みを持たないように多様な観点で情報を提供し、特定の正解を作らない (NG：ステレオタイプの形成に繋がるような内容。西洋文化に偏った学び等)
実施 方針案	■ 歌や映画等の楽しめるコンテンツを用いて英語を聞く機会の拡充 ■ 自主的／ペアでの発話学習を繰り返しながら、定期的にALTと会話し、レビューを貰えるサイクルの運用	■ 現在、指導室が企画して実施中のコミュニケーションプログラム（3/4 拓勇小など）を基にした、より実践的な環境で外国語を使う体験の設計	■ 遊びや授業での取り扱いテーマを入り口にしつつ、多様な文化／切り口で学びを深めることができる設計 ■ 各学生がそれぞれ、興味を持った文化の理解を深めることができる設計 ■ ALTが自らの文化や考え方が共有できる機会の設計 ※内容の偏りは要考慮
実施 方針案	+ ■ 英語授業の各単元で扱う言語活動を用いて、CAN-DOリストの学習到達目標に至るレベルのことが学べる設計を採る →学校側として、「普段の学習の振り返り」という位置づけを取れることで、モデル校での導入や市内学校への横展開のハードルを下げる		

施策の推進体制

原課・市内学校・事業者の協力を得ながらプログラムの検討・実施を進めています

参考

R8推進体制



デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイトネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ リスクアドバイザー 合同会社、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士法人、DT 弁護士法人およびデロイト トーマツ グループ 合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市に約2万人の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト、www.deloitte.com/jpをご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）のひとつまたは複数を指します。DTTL（または“Deloitte Global”）ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドはDTTLのメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、リスクアドバイザー、税務・法務などに関連する最先端のサービスを、Fortune Global 500®の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来175年余りの歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの45万人超の人材の活動の詳細については、www.deloitte.comをご覧ください。



IS 669126 / ISO 27001



BCMS 764479 / ISO 22301

IS/BCMSそれぞれの認証範囲は
こちらをご覧ください

<http://www.bsigroup.com/clientDirectory>

Member of

Deloitte Touche Tohmatsu Limited

学校の統廃合に係る 地域説明会

結果報告

令和8年7月 | 苫小牧市教育委員会



参加人数

合計：179人

日時	会場	参加人数
7月1日（水）	凌雲中学校	15人
7月2日（木）	啓明中学校	9人
7月3日（金）	日新小学校	16人
7月7日（火）	豊川小学校	23人
7月8日（水）	糸井小学校	7人
7月9日（木）	苫小牧西小学校	17人
7月10日（金）	開成中学校 (清水小学校)	43人
7月16日（木）	明野中学校	12人
7月17日（金）	若草小学校	13人
7月21日（火）	美園小学校	24人

※各回18時から

当日の流れ・説明内容

▶ 教育長あいさつ

▶ 再編ビジョン（素案） 全体説明 17分

苫小牧市立学校再編ビジョン（素案）

～みんなの笑顔を未来へつなぐ～



令和6年2月
苫小牧市教育委員会

苫小牧市立 凌雲中学校



昭和22年 苫小牧市立西中学校鎌倉分校として発足
昭和24年 校名を鎌倉中学校に改称
昭和31年 校名を凌雲中学校に改称
昭和57年 苫小牧中学校から分離独立
平成10年 鎌倉中学校から分離独立

▶ 学校別資料説明 10分

▶ 質疑応答 約1時間

苫小牧市立 凌雲中学校



- 昭和22年 苫小牧町立西中学校錦岡分校として発足
- 昭和24年 校名を錦岡中学校に改称
- 昭和31年 校名を凌雲中学校に改称
- 昭和57年 啓明中学校が分離開校
- 平成10年 緑陵中学校が分離開校

生徒数・学級数・築年数の推移

■ R8年度の数值（現状整理） 築61年

学年	生徒数	学級数
1年生	69 人	2 学級
2年生	80 人	3 学級
3年生	72 人	2 学級
 合計	221 人	7 学級

■ R18年度の数值（将来推計） 築71年

学年	生徒数	学級数
1年生	31 人	1 学級
2年生	35 人	1 学級
3年生	39 人	2 学級
 合計	104 人	4 学級

※生徒数、学級数は普通学級の数字

Aブロック中学校 生徒数・学級数 推計

・ 【統合前】

		R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)
凌雲中学校	生徒数	209	222	224	204	189	160	136	131	127	121	112	104
	学級数	7	7	8	8	7	6	6	6	6	6	5	4
啓明中学校	生徒数	280	285	275	266	245	231	230	221	214	204	190	176
	学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	8	7	6	6
緑陵中学校	生徒数	261	270	276	282	276	277	269	258	249	237	220	204
	学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	7



令和14（2032）年度 緑陵中へ統合（凌雲中）

令和17（2035）年度 緑陵中へ統合（啓明中）

【統合後】

		R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)
凌雲中学校	生徒数	209	222	224	204	189	160	136	—	—	—	—	—
	学級数	7	7	8	8	7	6	6	—	—	—	—	—
啓明中学校	生徒数	280	285	275	266	245	231	230	221	214	204	—	—
	学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	8	7	—	—
緑陵中学校	生徒数	261	270	276	282	276	277	269	389	376	358	395	368
	学級数	9	9	9	9	9	9	9	12	12	12	12	12

※各数値は苫小牧市立学校再編ビジョン（素案）における推計値

緑陵中学校周辺の地理的状況



© OpenStreetMap contributors

Q 小規模校でもよいのでは？

小規模校の良さ

- きめ細かな指導がしやすい
- 人間関係が深まりやすい
- 異学年の交流がしやすい
- 地域との交流がしやすい

小規模校の課題

- 学びあいや多様な考えに触れにくい
- 人間関係が固定化しやすい
- 行事が制約され効果が得にくい
- 教員数が少なく、中学校では各教科の免許を持つ教員を配置しにくい
- 保護者の負担が大きくなる

適正規模で課題解決

- 多くの友達と切磋琢磨
- 多様な考えに触れる機会を確保
- 指導方法の工夫改善
- 学校行事の教育効果を向上
- 多くの先生が支え合い高め合う
- 保護者・地域との協働を推進

クラス替えができる！

より望ましい教育環境へ



Q 校舎、跡地はどうなるの？

～凌雲中学校～

校舎 築61年

体育館 築33年

市教委の基本的な考え

- ▶ 老朽化した校舎・体育館は、取り壊して跡地の活用を検討します
- ▶ 新しい校舎・体育館は、新たな用途として活用を検討します
- ▶ 地域の実情にあわせて、市と協議します

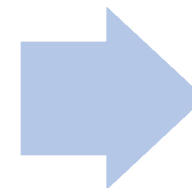
これまでの地域からの意見

中学生の部活（放課後活動）
のために体育館を残せないか

錦岡小学校の改築時に敷地を
活用してはどうか

ビジョン決定後、R9～「地域プラン」策定

R12頃～「統合準備委員会」で協議



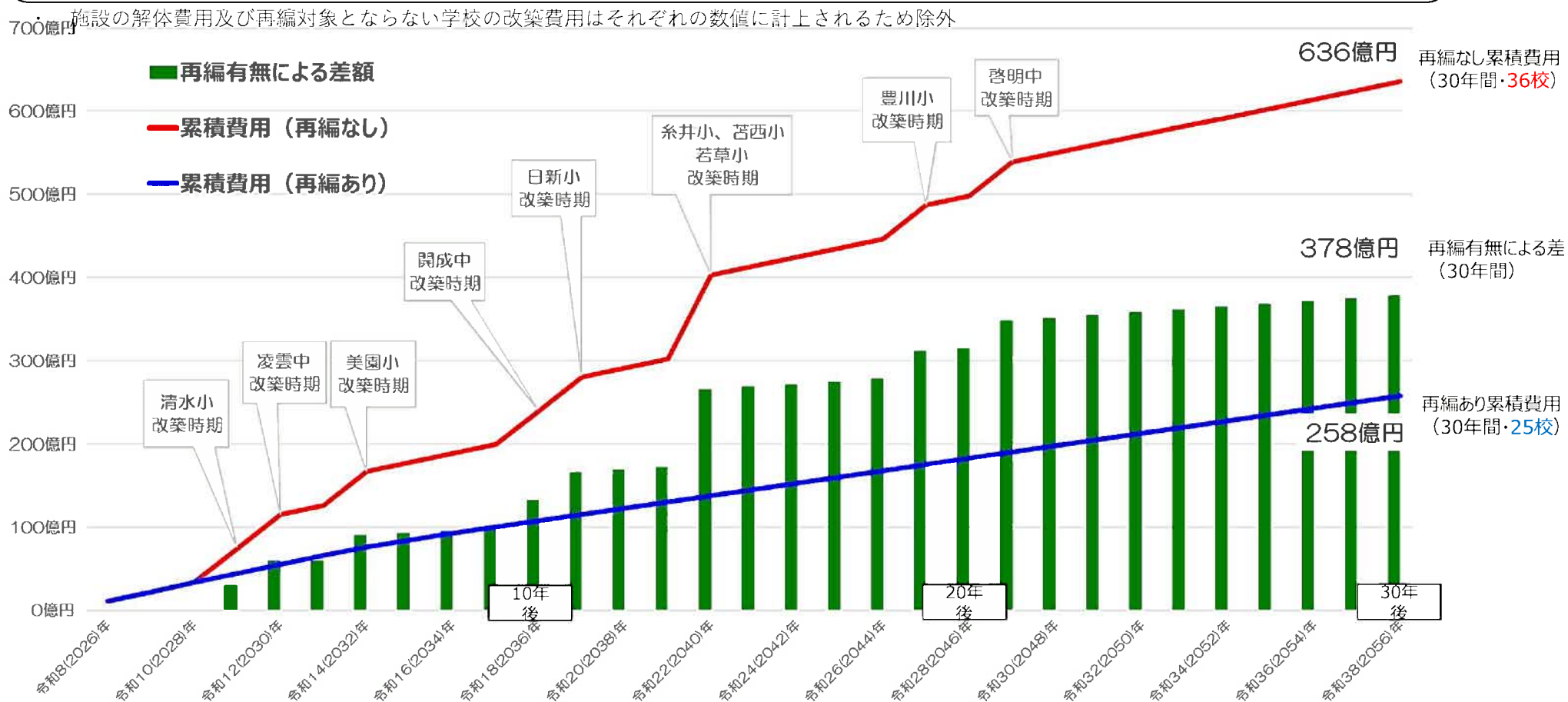
R14統合予定

その他のご意見・質問

質問	回答
母校が無くなるのは寂しい。 何か思い出は残せないのか。	弥生中や明徳小と同じように、思い出を残すことができるよう検討します。
樽前、北星町などは緑陵中まで遠い。特に冬期間などの通学手段について聞きたい。	通学距離が3 kmを超える地域は、夏場は自転車、冬場は路線バスへの通学費用の補助を検討します。
敷地が広く、海からも離れるので、凌雲中の跡地に錦岡小学校を移設してはどうか。	錦岡小の老朽化に伴う改築時において、移設の可能性を含めて検討します。
緑陵中を閉校してはどうか。	児童生徒への影響を最小限にするため、小規模校を近隣校に統合することを基本方針としております。
近くの学校が無くなると避難所が遠くなって困る。	様々なご意見を伺いながら、代替施設の選定など、関係機関等と協議を進めます。

(参考) 学校の維持管理にかかる費用の推移モデル

- ・ 学校維持管理に関する費用（光熱水費、消耗品、施設維持補修経費、市負担人件費）を **年間1校あたり平均3,000万円**として計上
- ・ 改築（建て替え）は、目標使用年数である65年を迎えたときを改築時期と仮定、費用は、社会情勢等により大きく変動するが、**1校あたり30億円**と仮定



主な意見

Q：学校の統廃合はコスト削減が目的ではないか。

A：学校再編は、子どもたちにより良い教育環境を整備することが目的である。

主な意見：教育環境（統合の影響）

Q：中3での統合は受験への影響があるのではないか。

Q：中学校の途中で統合になる場合制服を2回買うのか。

Q：閉校になる学校の教員は統合先にいくのか。

A：子どもたちに影響がないよう、教員の配置も含めて十分に配慮しながら進める。

Q：いじめが増えるのではないか。

A：クラス替えができる環境にすることで、学級内でのトラブルやいじめがあった際、クラス替えを契機に、人間関係をリセットして、子どもが安心して通学できるというメリットもある。

主な意見：安全な通学

Q：2 k mがスクールバスの対象とあったが、1.9 k mの場合は対象にならないのか。

A：対象範囲は、学校ごとの具体的な地域プランを策定する中で決定するが、柔軟に対応したい。

Q：大きい道路を子どもたちが渡るのは心配だ。

A：学校再編に伴い通学路を見直す中で、関係部署と連携しながら、交通指導員の配置等を検討していきたい。

主な意見：まちづくり

Q：人口減少・空き家問題などと並行して、まちづくりの観点から市長部局と連携をして進めるべき。

A：学校の再編は、クラス替えができない状況の解消など、子どもたちのより望ましい教育環境の整備が目的ではあるが、一方で、まちづくりの観点から考えることも重要と考えている。今後、地域プランの策定において、跡地の利活用を含めて検討していきたい。

主な意見：プロセス

Q：説明会を複数回開催してほしい。

A：必要に応じて複数回行うことも考えている。十分に皆さんの意見を聞いていきたい。

□ 検討課題

清水小学校・開成中学校 ～住民意見～

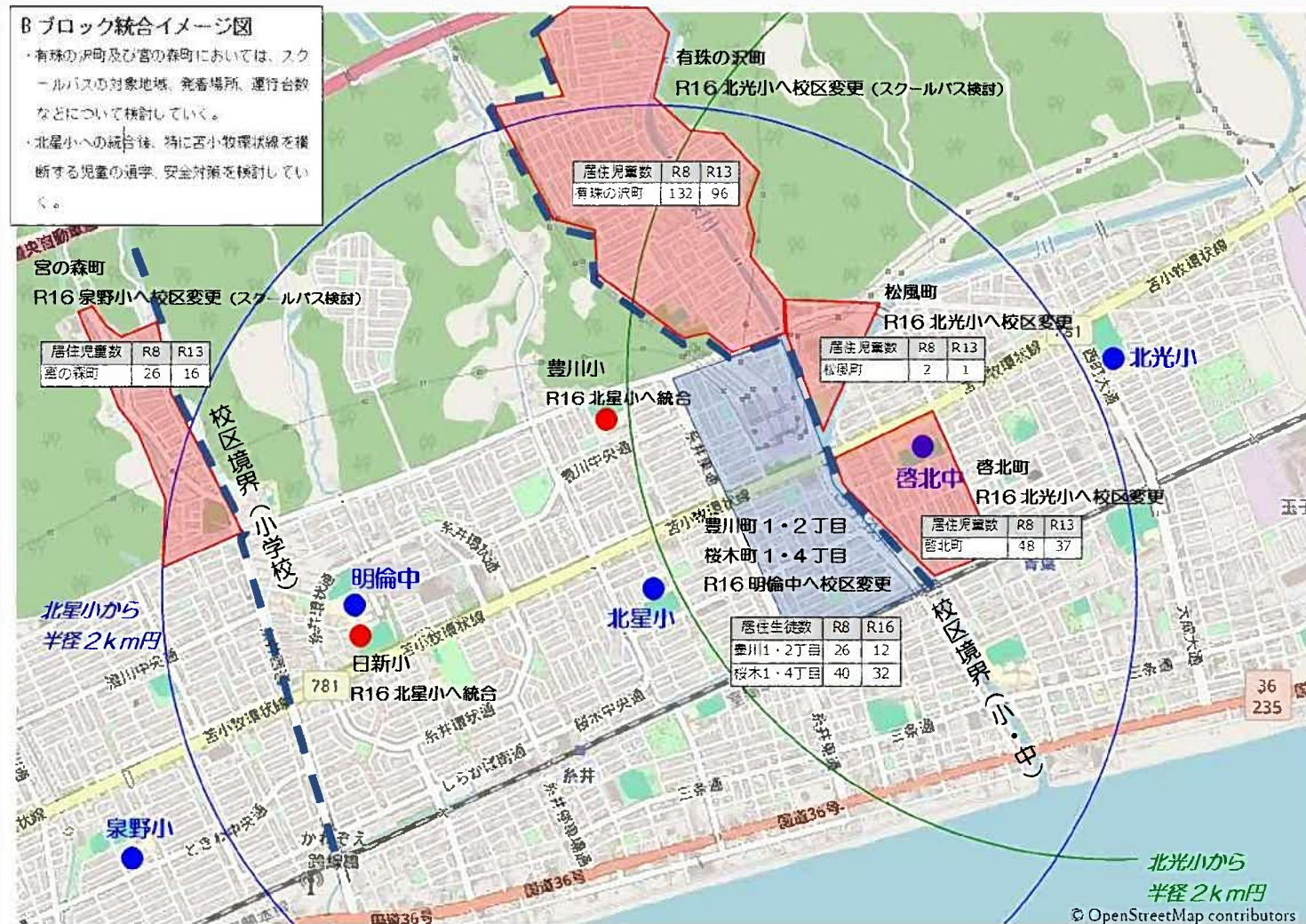
- ・この地区は文教地区として誇りを持ち、小規模校の良さを生かしながらこれまでやってきた。
- ・中学校では切磋琢磨する環境が必要だが、小学校は小さいほうが良い。
- ・1学級でも（クラス替えができなくても）問題はない。
- ・統合ありきではないのか。
- ・勇払のように残す方向で検討してほしい。
- ・樽前小学校のように特認校としての存続を検討してほしい。

□ 検討課題

日新小学校 ～住民意見（宮の森町）～

- ・ 日新小学校閉校時には、宮の森町の校区が泉野小学校に変更となっているが、泉野小学校は小規模校なので、宮の森町は適正規模の学校に通う選択肢がない。
- ・ スクールバスの対象エリアなのであれば、他の友達と一緒に北星小学校に進学させたい。

日新小学校・北星小学校周辺の地理的状況



□ 検討課題

豊川小学校 ～住民意見（桜木町）～

- ・ 小中連携を推進するための校区再編ということは理解するが、最初から隣の校区の北光小、啓北中に通うことはできないか。
- ・ 苫小牧川を校区の境界線に学校を再編すると、川の向こうに近い啓北中があるのに、遠い明倫中に通わなければならない。通学時間の差は1日1時間もある。

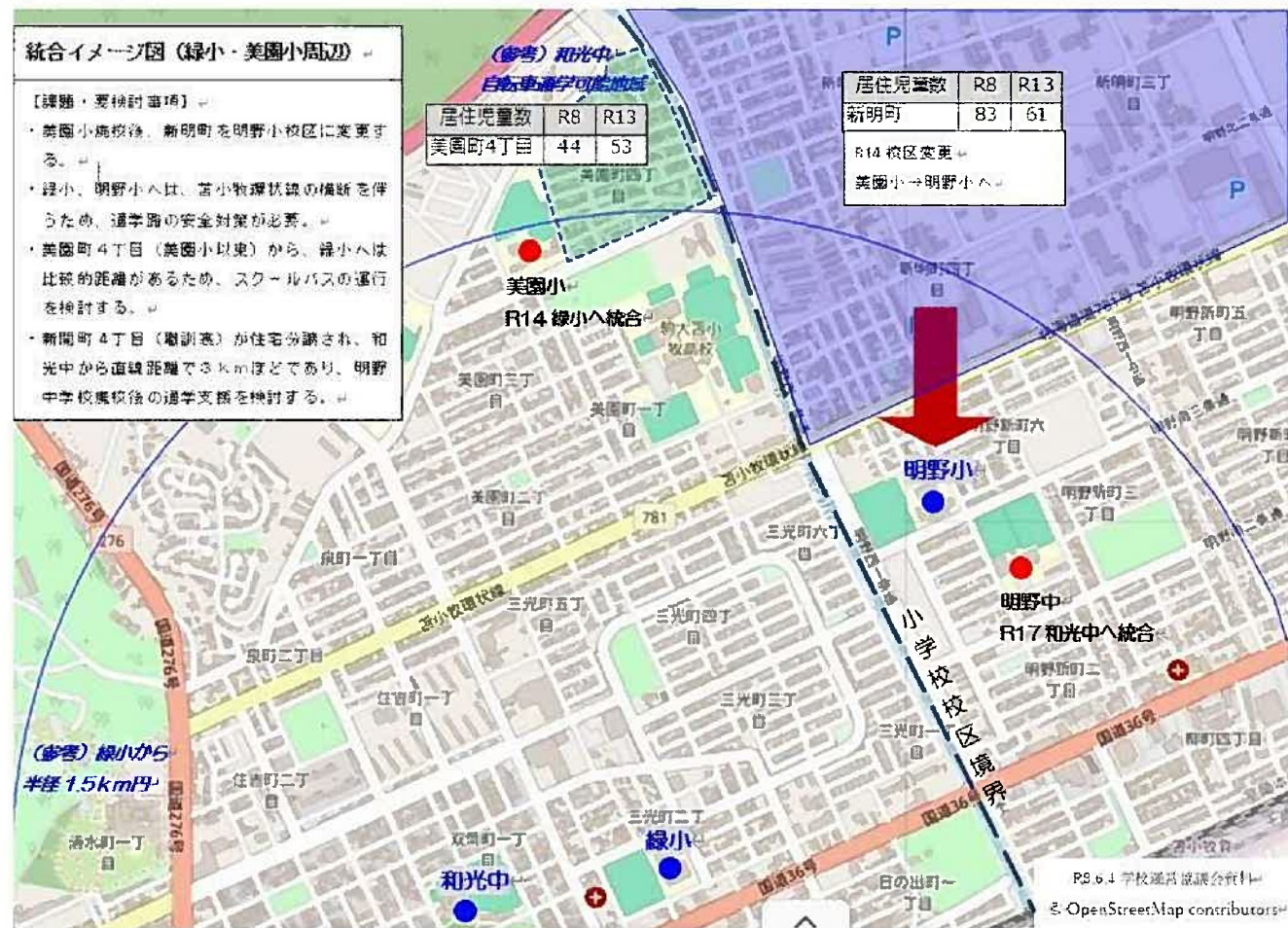
□ 検討課題

美園小学校 ～住民意見（新明町）～

- ・新明町は、美園小の閉校で小規模校の明野小へ統合となり、少数派が切り捨てられる印象がある。適正規模の緑小へ行けるようにすべきでは。

また、明野中学校も統合により閉校となるため、統合を2回経験することとなり、負担が大きい。

美園小学校周辺の地理的状況



今後の進め方

説明動画の作成・公表
意見フォームの設置
教職員へのアンケート実施
出前講座メニューへの追加
あなたの街でミーティングにおける周知
修正案の説明（方法未定）



更なる議論の深化